

第15回「副首都ビジョン」のバージョンアップに向けた意見交換会における意見

令和4年11月2日  
立命館大学 岡井 有佳

- 個人的には、ミニ東京を目指しても東京には追い付けないと思う。経済規模を追い求めるということを目的にするのではなく、東京と違う点で大阪独自の良さをアピールする。大阪の良さを理解していただくと、結果的に経済のポテンシャルが上がってくるのではないか。目的・目標に置くものは、経済規模ではなく、それは結果的についてくるもので、まずは、大阪の良さ・売りになるようなものをしっかりと打ち出した方がよいのではないか。
- そのためには、問題点の解決も一つの方法だと考える。中間論点整理の中にも、大阪の所得が低いということがあった。所得の高い職業があまりないように思うので、ライフサイエンス・ヘルスケア分野には期待。この分野で高所得の仕事を作り出し、専門職の優秀な人に来てもらう。そうなれば、例えば、海外からも「高度医療は大阪」と認知されるようになり、観光だけでなく医療ツーリズムのようなことも見込めるようになる。
- もう1つ、女性の就業率が低いということもあった。一方で、大阪の大学進学率は高いと聞いている。大学進学率は高いけども、その後の所得がなぜか下がる。大阪には大学がたくさんあって、もちろん大阪から東京の大学に行く人もいるけれども、地方から大阪の大学へ来る人もそれなりにいて、大阪・関西には大学生はそれなりに多くいるにも関わらず、所得の高い職業が東京に多いので、優秀な人が就職のときに、東京に行ってしまうという話を聞いた。先ほど申し上げたように、所得の高い仕事を作るといことと、女性の力を活かすといことは必要。
- 若者という観点からは、若者の発想でいろんなことにチャレンジして新しい仕事を作るような、インキュベーター支援をやってもいいのではないか。そうすると、若者だけでなく、女性も自分のペースで働けるという意味で、会社に所属して働くよりも、そちらの方がいいのではないかと思う。チャレンジする人に対して支援金を出すなどして推し進め、『東京より大阪の方がチャレンジできる』となれば、やる気のある優秀な人が集まって来てくれるのではないか。
- 大阪は公共交通が便利で車が無くても生活できるという意味で、ウォークアブルシティを目指すという方針においては、他都市より大阪は進んでいる。御堂筋における側道歩行者空間化も進んでいる。ウォークアブルということから、高齢者はもちろん他の人たちにとっても住みたいまちを目指すということも良いと思う。コロナを受けて、オンラインで場所にとらわれなくなったし、リニア中央新幹線が将来開業することも考えると、東京の会社に勤めていても、必ずしも東京に住まなくても良いということになる。その時に大阪を選んでもらえるように、リニア中央新幹線の開業に間に合うよう、住みたいまちとして、都市空間を歩きやすく住みやすいまちにしていくことは進めてもらいたい。

- 大阪だけでなく神戸・京都との連携は進めていくべき。広域行政に自治体並みの権限を与えるのかどうかといった点はもちろん議論があるかと思うが、大阪・京都・神戸の3都市で何かしらの連携をして関西の良さをアピールしていくことで、東京に対して関西の存在をアピールすることは重要。各都市が各々にやるのは限界があって、かといって一緒にやりましょうというだけでは結局競争になりうまくいかない。各都市から集まった構成体でなくて、3都市のことを考える中立で動ける組織が必要。例えば、ライフサイエンスの企業を誘致するときに、どこがいいのかを、足を引っ張り合うのではなく、役割分担をできるような調整をする。大阪といっても、大阪市に限定すると面積が狭く限られる。大阪府にエリアを広げればいいのだが、大阪の郊外まで住みたいくなるような都市の魅力を作るということは難しいと思う。京都・神戸に公共交通でアクセスが便利ということは事実なので、3都市全体のメリットになる取組みをするためには、その調整をする組織として、広域行政組織というのは1つやり方としてはあるのかなと思う。世界の人から見れば、大阪だけに来たいわけではなく、関西に来たら、京都にも行きたいし、神戸にも行きたいと思う。

以上